



校務文書の電子化と電子黒板への活用 横浜市立高田小学校 編

『ScanSnap』シリーズは、誰でも使える操作性と読み取りスピードの速さが評価され、すでに多くの教育機関でも授業や校務の電子ファイリングに活用されている。こうしたなか、現在、学校現場のトレンドともいえる「協働学習」の実践において、新たなニーズが生まれているという。学校現場における活用について、佐藤 幸江・金沢星稜大学人間科学部教授に話を聞いた。



横浜市立高田小学校

横浜市教育委員会が新しい時代の要請に応じた教育の実現を目指す「パイオニアスクールよこはま」のモデル校に指定されるなど、ICT 活用に積極的な学校として知られている。

前 高田小学校主幹教諭
現 金沢星稜大学人間科学部教授
佐藤 幸江 様

子どものワークシートを一斉スキャン、協働学習を簡単に実現！

紙を電子化する便利さを体感

取材は佐藤教授がこの3月まで教鞭をとっていた横浜市立高田小学校で行われた。同校はICT活用に積極的な学校として知られ、なかでも、国語科の実践を中心に先駆的なICT活用に取り組み、高い評価を得ていたのが佐藤教授だ。

『ScanSnap』を初めて使ったのは6～7年前。「簡単な操作でアナログをデジタル化する。しかも、あっというまにPDF化されることに驚きました」と印象を語る。

「当時は学校経営計画など校務文書を電子化するのによく活用しました。これまで紙で保管しなければならなかったものをPDFで共有することで、使いたいときにすぐ取り出せるのが便利でしたね」と振り返った。

また、授業で子どもたちが作ったカードを取り込んで利用したり、保管場所をとるアンケートの集計用紙を保存したりして重宝したという。

タブレットへの直接転送が可能に

次に、『ScanSnap』の新モデル「iX500」の特長を紹介し、その機能が今後の学校現場でどのように役立てられるかを探ってもらった。

「iX500」の最大の特長は、WiFi 経由でスマートフォン／タブレットへの直接転送が可能になったことだ。つまり、パソコンがなくても(*) 直接タブレットなどにPDFを保存できるので、ちょっとした資料などをデジタルカメラ感覚で取り込むことができる。 ※初期設定の1回だけパソコンとの接続が必要

これには佐藤教授も「タブレットを活用した授業が増えている学校現場にとっても、可能性を感じる機能ですね」と期待する。現在、学校現場では文部科学省の掲げる「学びのイノベーション事業」のもと、子ども同士が教え合い学び合う協働的な学びを推進している。その中で、支援ツールとしてのタブレットの導入が始まっており、将来的には生徒1人1台に整備することが構想されている。

しかし、国策としての予算化がはっきりしていないため、今すぐにどの学校でも実現できるというわけではない。そこで今、タブレットのない学校でも簡単に協働学習ができるツールとして脚光を浴びているのが『ScanSnap』だ。



iX500なら、PCなしでもWiFi 経由でタブレットに直接転送できる。

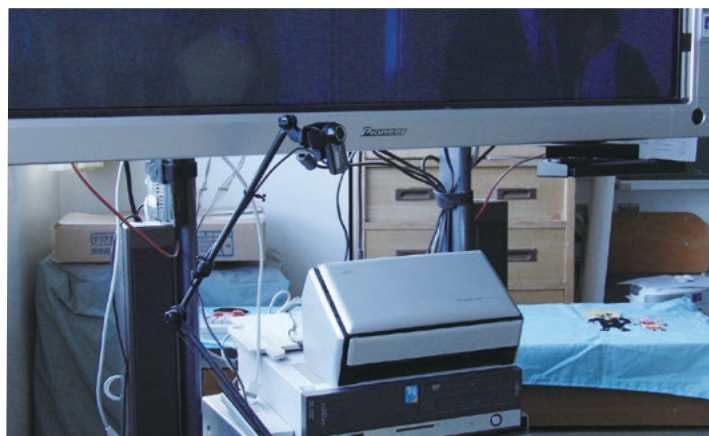
今すぐできる協働学習のツールに

佐藤教授は、『ScanSnap』で読み取ったデータがすぐさま電子黒板に表示できるソフトウェアを使った高田小の授業を例に挙げる。「たとえば、グループごとに選んだ子どもたちの学習カードを見せ合い、どの考え方がいいかを話し合うとき、『ScanSnap』で取り込んで電子黒板に映せば全員に共有可能。今はどの教室でもデジタルテレビなどの大型提示装置が配備されているところが多くなってきているので、これさえあれば、協働して学び合い、新たな気づきや発見を生み出す授業が手軽に実現できますね」。

また、子どもたちが「手書き」で書いたものを提示できる意義についても、「タブレットに書き込むのもいいですが、特に低学年では直書させたいですから」と答え、アナログとデジタル双方の良さを引き出せる『ScanSnap』の特性を評価した。

加えて、何もないうちで説明するより、何かを映したほうが子どもの関心が高まるとし、「それが自分の作品であればより顕著になる。普段は話さない児童も手を挙げて答えるようになるほどです」と授業の効果を口にした。

一方、こうした授業を進めるためには時間の効率も求められる。「以前は子どもたちが書いたものを皆で共有するためには、画用紙で書き直して黒板に貼るのが一般的でした。でも、それだと書き上げるまで時間がかかっていましたが、これならリズムが途切れることなく授業が進められます」。



高田小の教室に設置されている『ScanSnap』。
児童の成果物をその場で読み取り、電子黒板に表示して活用している。

フォルダの整理に便利な「楽²ライブラリ」も進化

さらに今回、スキャンした文書を電子書棚のイメージで管理・保管してくれるファイリングソフト「楽²ライブラリ」が、リニューアルされた。*セットモデル (iX500 Deluxe) に同梱

「学校の職員室でも年々共有するフォルダが増えているので、こういう整理棚みたいなのがあれば便利ですね。今は教育委員会の通達文書なども PDF で送られてくるので、こうした整理にも使えるのでは」と感心する佐藤教授。

自身の活用でいえば、読書感想カードや体育学習カードなどを読み取らせ、教科別に整理して使うと、学習の振り返りや評価が簡単に行えるようになったかもしれないと笑顔を浮かべた。



ファイリングソフトウェア
「楽²ライブラリ
Smart with Magic Desktop」
実際の書棚に並べるように
ファイリングできる。

手本となる活用を周知していくことが大事

そんな佐藤教授は、今春からこれから教員になるようとする大学生に向けて授業を行っている。先日ゼミで学生に紙プレゼンをさせたが、『ScanSnap』があれば、スキャンして大型提示装置に映して共有化でき、もっと皆に伝わりやすくなったのではと感じたと話す。

同じように、今求められている協働学習の実践についても、多くの学校では環境整備が十分ではないことを挙げ、それだけに負担の少ない ICT 投資で学び合い教え合う授業が実現できるケーススタディを増やしていくことが大事になると指摘。誰でも操作できる『ScanSnap』なら、今すぐ協働学習がスタートできる。今後も学校で活用する場合に参考になる使い方や授業例を周知して行ってほしいと期待した。



『ScanSnap』の協働学習ツールとしての魅力語る佐藤教授。

「学習情報研究」2013年5月号より

【著作権について】 著作権の対象となっている新聞、雑誌、書籍等の著作物は、個人的または家庭内、その他これらに準ずる限られた範囲内で使用することを目的とする場合など、著作権法で定められた例外を除き、権利者に無断でスキャンすることは法律で禁じられています。なお業務利用では、著作権者の許諾が必要となることがありますので、著作権法、およびご利用になる企業や団体が定める利用規則等に従って利用して頂くようお願いいたします。

販売店

【お問い合わせ先】 株式会社PFU イメージング サービス&サポートセンター
TEL: 050-3786-0811
<受付時間> 月~金曜日 10時~12時、13時~17時 (当社休業日除く)
E-mail: scanners@ml.ricoh.com

ScanSnap に関する詳細はこちら
<https://www.pfu.ricoh.com/scansnap/>